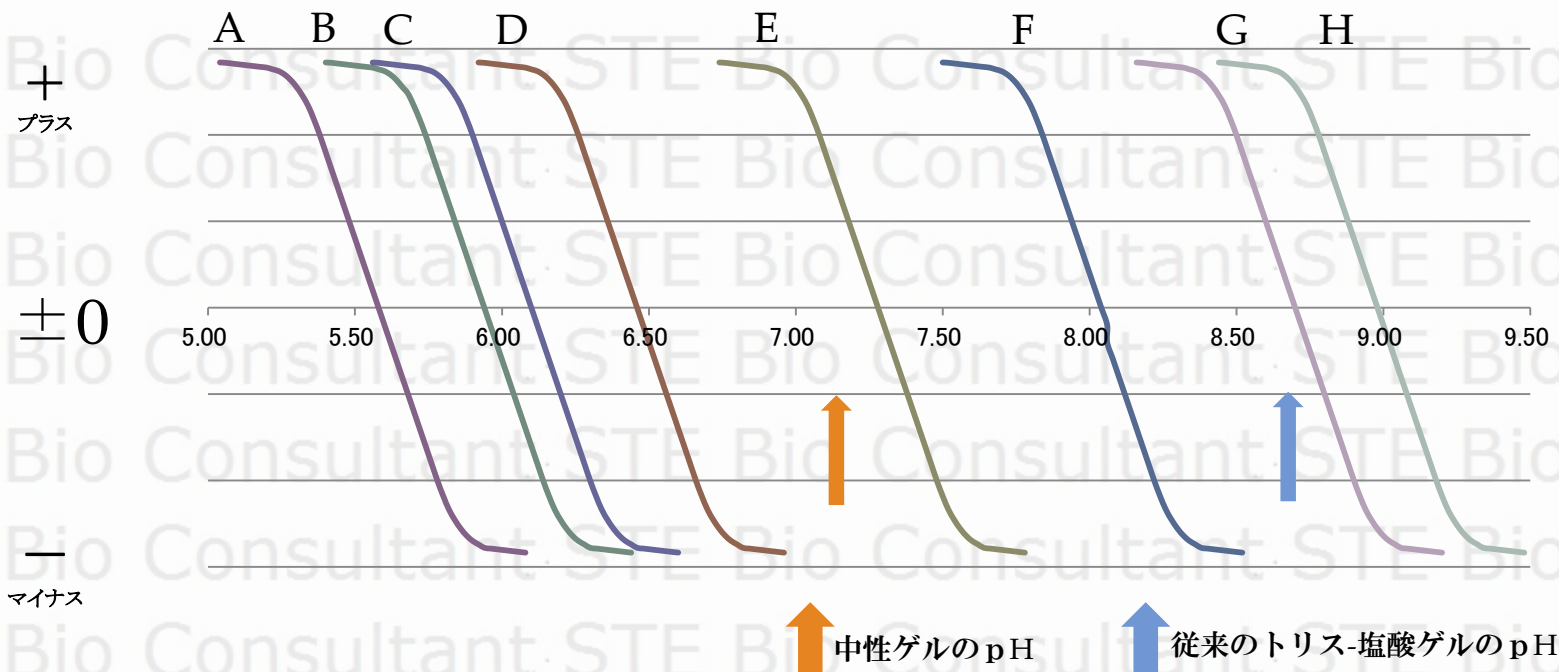


中性ゲルでは分子量がズれる

REA-007

STE Bio Consultant

タンパク質の解離曲線



《中性ゲルでは》

- pI値が、中性ゲルのpHより塩基性側にあるタンパク質は、泳動中、マイナスに帯電している
- マイナスに帯電したタンパク質自体は、プラス極に向かって、引かれる
- 但し、SDSでミセル化している為、ミセル化したタンパク質はマイナス極に惹かれる
- これらのタンパク質は、結果として、本来の泳動位置より高分子量側にずれて泳動されることとなる。

《従来のトリス・塩酸ゲルでは》

- トリス・塩酸ゲルでは、少なくともpI値が、8.5付近までのタンパク質は、プラスに帯電し、陰極に引かれる

SDS 中性ゲルでは分子量がズれる

REA-007

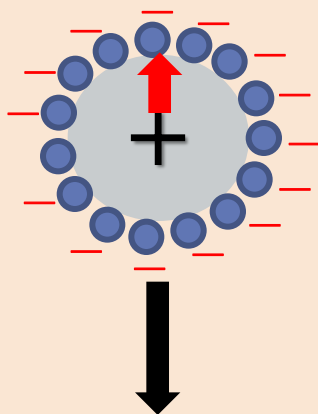
STE Bio Consultant

電極: マイナス

中性ゲル

● SDSイオン

● タンパク質



タンパク質の移動度は、相対的に遅くなる

pI値が塩基性側にある場合、
本来より高分子量の位置に泳動される

【泳動位置がズれる】

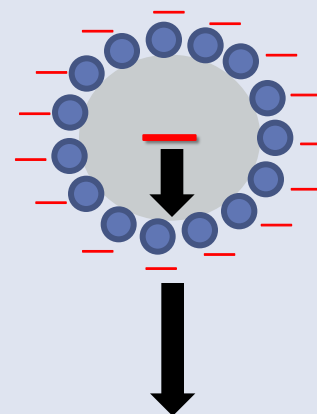
電極: プラス

電極: マイナス

トリス・塩酸ゲル

● SDSイオン

● タンパク質



タンパク質本来の移動度で泳動される

但し、pI値が10.0付近を超える場合には問題あり
一般的に、強塩基側に等電点があるタンパク質はすくない

電極: プラス